

# 木質流動成形技術による県産木質資源の用途開発

研究期間：令和2～3年度

担当者：会津若松技術支援センター 産業工芸科 齋藤 勇人

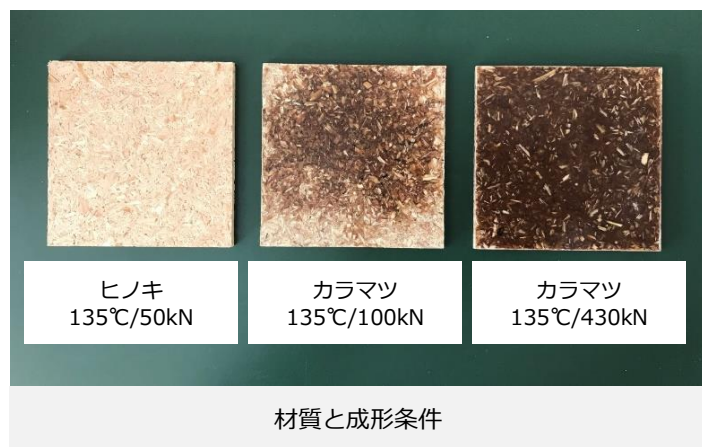
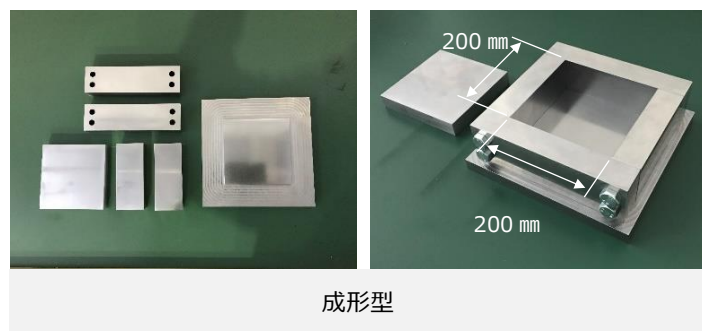


図1 平板形の成形型と成形体

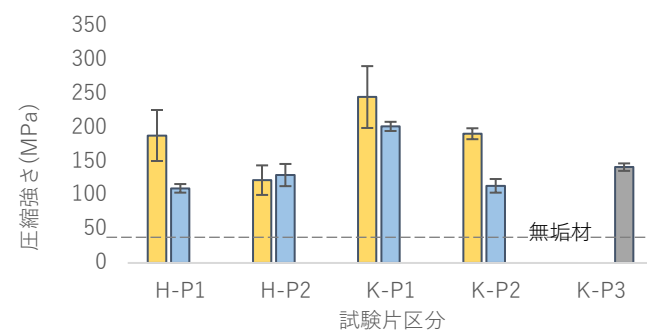
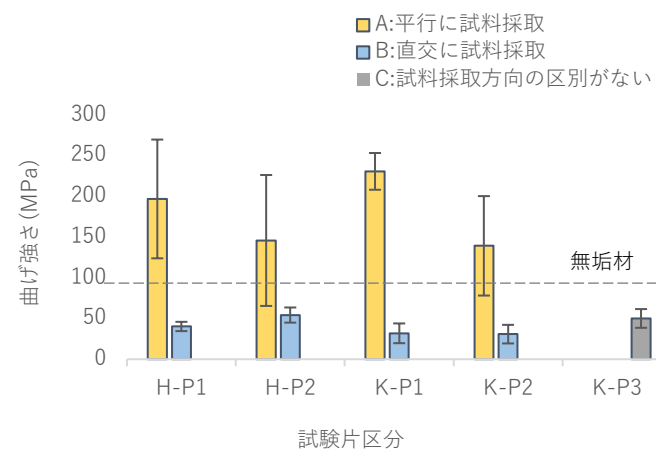


図2 強度試験の結果

## 解決すべき課題

木質流動成形技術は、従来技術よりも高い自由度で木材に形状付与できるため注目されている技術ですが、形状付与された成形体の強度や成形体の製作の知見が少ないため、容易に製品開発に取り組めない課題があります。

## 研究内容

課題解決のために、成形型の製作や成形試験を行いました。また、成形体の方向による強度差や、成形体の内部の木繊維方向を調整することで、方向による強度差が改善するかについて調べました。

## 結果・まとめ

2種類の成形型を製作、成形実験を行い、ブロック形の成形体と平板形の成形体（図1）を製作し、成形型製作や成形条件の知見を得ました。

また、成形体から試験片を採取する方向によって、大きな強度差があることがわかりました（図2）。繊維方向をそろえて成形した試験片の強度は無垢木材よりも向上し、製品にした時の加わる力を考慮して繊維を配向することで高強度の素材として使用できます。今後も試験を行い、知見を収集していきます。

**詳細な試験研究報告書はこちら！**

ハイテックプラザ 試験研究報告書

検索 

- ・「木質流動成形技術による県産木質資源の用途開発（第2報）」

お問い合わせ窓口 TEL：024-959-1741（代表：産学連携科）